



仏式による起工式で、鍬入れをして工事の無事を祈る工事関係者

来春開園に向け園舎工事着工

工事の無事を祈り、仏式で起工式

日吉台至明こども園

来春の開園を目指し日吉台至明こども園の園舎建設工事の起工式が9月1日、日吉台幼稚園跡地で行われた。起工式に先立ち前日の8月31日には、日吉台市民センターで、「建築工事住民説明会」も開催。「日吉台に幼児教育施設を残す」とした住民待望の認定こども園は、来春のオープンを待つばかりとなった。

日吉台幼稚園跡地に開設予定の認定こども園は、幼稚園と保育所の機能を併せ持つ施設。園児の減少で閉鎖された市立日吉台幼稚園に代わり、学区住民が2100人を超える署名を集め市や市議会に誘致運動を進めてきたこども園。学区住民の熱い思いが実って設置が決

まり、昨夏の大津市の事業者選定公募で、大津市坂本8丁目で専称寺保育園を運営する社会福祉法人「一向山福祉会」（西川義光理事長）に運営事業者が決定している。建設される園舎は、2階建て延べ606平方メートル。2階にプールが設けられるという。定員は、幼稚園機能の1号認定15人、保育園機能の2・3号認定60人の計75人。園名が「日吉台至明こども園」とされたのは、一向山専称寺が明治5年、大津市坂本に坂本小学校の前身の一つ「至明学校」を創立。由緒ある「至明」の名を復活させたからだという。

起工式は、仏式で行われ、発注者の社会福祉法人「一向山福祉会」（西川義光理事長）と、施工業者、設計業者らが出席。祭主の西川義光師僧侶が読経するなか、出席者が焼香、鍬入れなどをして工事の無事を祈願した。

西川理事長・「より良いこども園づくり」めざす

工事住民説明会も開催

住民説明会には、こども園運営事業者の社会福祉法人一向山福祉会の西川義光理事長、就任が決まっている青木寛誠日吉台至明こども園長、西川義法同園副園長、工事業者、設計監理者が出席、学区住民約20人が参加した。

説明会の最初、こども園運営事業者、一向山福祉会の西川理事長が「日吉台学区のこどもたち、学区のためにより良いこども園づくりを行う」とあいさつした。工事概要説明によると、園舎は、鉄骨造り2階建て延べ606平方メートル。工期は9月1日から来年3月15日まで。土、祝日は工事を行い工事時間は、午前8時半から午後6時ごろまで。隣接の日吉台小の児童登校時の午前7時40分から午前8時半までと、下校時の午後2時半から午後4時まで工事車両の出入りは行わない。同時時間帯に車両の出入りがある場

玄関灯・門灯 点灯にご協力ください！

- ・ 帰宅時も明るくて安心
- ・ 泥棒に狙われにくい街づくり



電気代は、LED電球（40W電球相当）の場合1か月60円程度、20W蛍光灯の場合1か月140円程度です。

合には、誘導員を適宜配置する。12月30日から1月4日までの年末、年始は工事は行わない。入札の関係で、工事着工スケジュールが、約1カ月程度遅れおり、天候その他の理由で工期末になつて日曜日にも工事が必要な時は現場に掲示している工程表に記入、知らせるといふ。緊急事態に備えての連絡は、工事事業者の大津市下阪本、株式会社「ケイ・ジー」（077-579-1750）まで。

説明会では、住民との質疑、応答も行われ、工事の騒音対策、防塵対策、工事車両による交通安全対策などについて質問が出され、工事業者側から「工事車両は、低騒音型の車両を使う。ほこりが出ないように散水して工事を行う。大型車両の住宅内の通行は、徐行を徹底させる」といづれの対策についても万全を期すとした。

江若バス

バス最終便、大幅繰り上げ

住民の足、やせ細る一方

学区自治連合会（丸山郁夫会長）に入った連絡によると、江若バス日吉台線で、JR比叡山坂本駅発の最終便の繰り上げ

を行うダイヤ改正が通告された。実施は10月17日から。最終便の繰り上げは、2016年秋と18年春に続くもので、高齢化

が顕著な日吉台住民の貴重な足は、ますます細くなっている。通告によると、平日は現行、比叡山坂本駅発22

時02分、日吉台循環と同駅発22時24分、市民センター行きを廃止し、21時47分、市民センター行きを新設する。土、休日ダ

イヤでは現行、比叡山坂本駅発21時15分、日吉台循環と21時47分、市民センター行きを廃止、20時48分日吉台循環を市民センター行きに変更、最終便とする。このダイヤ改正で比叡山坂本駅から日吉台住宅地に向かう同バスの最終便は、平日で37分、土、休日で59分繰り上がり、平日で午後10時台、土、休日では午後9時台のバス便がなくなることになる。最終便の繰り上げにつ

困ります！そのオシッコ！！
マナーを守りましょう！

犬のトイレは適切な場所で！
※ 犬の散歩の際は、フン尿の始末ができる用意（ビニール袋、水入りペットボトル）をしましょう。

大津市動物愛護センター

いて、同交通側は、新型コロナウイルス禍でバス利用者が激減、対前年比40〜50%の減収に見舞われ、厳しい経営環境にあり、この

路線を維持、継続してゆくため需要に応じたダイヤ調整を行い、利用者が少ない最終便の繰り上げを行った、としている。

ユニークなスピーカーBOX寄贈

日吉台小学校（熊川芳彦校長）に9月始め、2丁目の老人クラブ、湖星クラブ（石川嘉英会長）からユニークな球体スピーカーBOX1組が寄贈されたⅡ写真。

2丁目「湖星クラブ」

五角形12面と三角形20面のパイン集成材を組み合わせた32面の球体スピーカーBOX。直径約37センチ、重さ約3キロ、5脚の台座がついている。スピーカーユニットは、直径10センチ、高音域も低音域も出せるフルレンジスピーカー。ボックス本体に吸音材を使い、スピーカー本体背部の音を反転させ空気音声で低音域の良さを出すバースレフ方式を採用。スピーカー下部には2カ所の穴を開け、重低音の響きの



良さを出す工夫を施している。同クラブの会員が1週間がかりで製作した。同小で、寄贈にしたスピーカーの視聴をしたが、澄んだ高音とダイナミックで迫力ある重低音が室内いっぱい響きわたっていた。同小には、このスピーカーBOXを使える専用アンプがなく同クラブでは、アンプについても寄贈を予定しており、学校では、寄贈されたスピーカーを音楽教育に用いるほか、さまざまな場で活用したいとしている。

会員手づくり

日吉台小の話題

ひよサポボランティア募集

こどもたちの手助けに

日吉台小コミュニティスクール運営協議会（野々口義信会長）と日吉台小（熊川芳彦校長）は、地域住民や児童の父母らの協力で、子どもたちの学習支援や活動を支援する「ひよサポ☆ボランティア」事業のボランティア

ア協力者の登録を募っている。「ひよサポ☆ボランティア」の活動は「児童教育活動支援」▽「読書環境の整備等」▽「学校行事等の支援」▽「マナ☆ビバの支援」の4種。児童教育活動の支援は、

子どもたちのミシン操作や裁縫の学習活動の補助や音読発表、掛け算の九九練習の聞き手の学習支援、調理実習の支援、公共交通機関を利用した校外学習の引率支援。読書環境の整備は、お勧め読書本の紹介、返却

された図書を通じた場所に戻す図書整理、傷んだ本の修理や図書委員児童の補助など。学校行事等の支援は、入学式、卒業式、運動会の準備など。マナ☆ビバの支援は、冒険☆アソビバ、学校で泊まるろうき子屋プロジェクトの応援作業など。このボランティア事業は、2018年度に同小コミュニティスクール事業としてスタートして今年度で3年目。同小では、ボランティア参加希望者は登録制とし支援が必要な場合に学校から出勤依頼がある。登録希望、問い合わせは

コロナ禍で学校行事に影響

運動会中止、修学旅行も行き先変更

新型コロナウイルスの影響で、日吉台小（熊川芳彦校長）では、今秋に計画していた運動会を中止し、2学年ごとの体育発表会として行うことを決め、6年生の修学旅行も行く先を変更、9月24、25日の両日、1泊2泊の行程で実施した。運動会に代わる体育発表会は10月3日に計画（雨天の場合は、7日）。新型コロナウイルスの感染防止の観点から2学年ごとの体育の学習参観の場として徒競走、リレーの競技を行う。2学年ごとの競技時間は3・4年生18時35分～9時20分、1・2年生19時25分～10時10分、5・6年生10時15分～11時。保護者の体育参観ができる。修学旅行は、例年だと広島方面だったが、これ

剪定奉仕で学校周辺すっきり



日吉台自主防犯推進会（山下英子会長）は、日吉台小学校で、親子の美化活動に合わせ9月11日、同小周辺樹木の剪定作業を行ったⅡ写真。

作業は、自主防犯推進会員らと同会の呼び掛けに応じた父母、学区の各種団体の人ら約25人が参加。午前8時20分ごろから参加者らが協力して樹木の剪定や清掃にあたり、小学校周辺のバス通りや正面、北門付近が見違えるように美しくきれいになった。

もコロナ禍の影響で奈良、信楽方面へ行き先を変更して行った。宿泊先も当初は、奈良での1泊を検討したが、児童の発熱等などの緊急時に備え、奈良から一旦、雄琴地区に戻り宿泊、翌日あらためて信楽方面へ向かい小学校での思いづくりを行った。

クラブで野菜特別市

野菜マルシェ、ふれあい農園手結び

10月31日
開催



毎月第2土曜日朝、滋賀銀行日吉台出張所前で開かれている「野菜マルシェ」。10月の開催は、9日の通常開催に加え、31日午前10時「野菜マルシェ実行委」と「ふれあい農園」がコラボした「日吉台マルシェWithふれあい農園」が特別開催され、ふれあい農園で採れた野菜のほか、例年、日吉台学区文化祭フリーマーケットで好評だった花の苗も販売される。

ふれあい農園は、今年も学区文化祭フリーマーケットに出店するため野菜の作付けを行ってきた。しかし、新型コロナウイルス禍で学区文化祭は中止に。行き先を失った野菜や育てた花苗を販売するため「野菜マルシェ実行委」にコラボを提案し、マルシェ側も同意、今回の特別開催が実現した。

特別開催で販売されるのは、さつまいも、しょうが、自然薯、さといも、万願寺、大根葉、カブ葉、ミズナ、ニラ、さつまいもつるなどふれあい農園出品や野菜マルシェ通常出品野菜、それにパンジー、ビオラ等の花苗。花苗について20苗以上の購入希望者は、個別配布される予約申し込み書を所定の申込先にポストインすることになっている。問い合わせは野菜マルシェ小林さん（090-1201-2016885）、ふれあい農園森さん（090-96131-0626）まで。（写真はにぎわう野菜マルシェ会場）